

平成 23 年度 第 7 回市川市市政戦略会議

1. 開催日時：平成 23 年 11 月 15 日（火）午後 4 時 00 分から午後 4 時 25 分
2. 場 所：アクス本八幡 2 階 研修室
3. 出席者：（敬称略、50 音順）
 - 会 長 栗林 隆
 - 副 会 長 田口 安克
 - 委 員 青柳 圭子・青山 真士・大矢野 潤・田平 和精・鈴木 真理
・福井 茂子・森 和男・吉原 稔貴
（欠席）岡田 稔彦・秦泉寺 友紀・小池 信行・中台 實・平田 直

市 川 市 大久保 博 （市長）

 - 笠原 智 （企画部長）
 - 萩原 洋 （企画部次長）
 - 鈴木 祐輔 （企画部次長）
 - 大津 政雄 （企画部企画・広域行政課長）
 - 伊藤 博 （企画部行政改革推進課長）
 - 小林 茂雄 （企画部行政改革推進課主幹）
 - 植松 美穂子 （企画部行政改革推進課主査）
 - 阿部 保昭 （企画部行政改革推進課主任）
 - 吉岡 茂幸 （企画部行政改革推進課主任）
4. 提出資料：資料 1 平成 23 年度「施設の有効活用にかかる公開検討会」施設ごとの諮問内容について
資料 2 平成 23 年度「施設の有効活用にかかる公開検討会」当日の進行について

【午後4時00分 開会】

○伊藤行政改革推進課長

開会に先立ち、大久保市長よりご挨拶申し上げます。

○大久保市長

ご多忙のところご出席いただき、感謝申し上げます次第である。今週19日に、施設の有効活用についてご審議いただくこととなる。企業であれば、大体は事業収支で判断すると思うが、行政施設はなかなか判断が難しいところがある。委員によっては教育に、あるいは文化振興に重心を置くだろうし、民間企業的なご判断をされる委員もいるだろう。昨年の事業仕分けのような、イエスカノーか、あるいは○か×かを定めるようなことではないということを皆様にお願ひする。これまでの学識経験を活かして、忌憚のないご意見を是非お願ひしたい。

(大久保市長 中座)

○栗林会長

会議を始めるが、市長の方針を私の言葉に直すと、このようなことになるのではないかと思う。

日本の社会が豊かになるにつれ、各地域の住民の厚生水準、満足度を上げることが行政に求められるようになったことを背景に地方分権が進められている。そしてその際の地方行政の役割は、民間ができないことを、税金を使って実施することである。ところが、税金を主たる財源とする予算に制約がある。このことを踏まえ、各施設が地域住民の厚生水準、満足度にどれだけ寄与しているのか、寄与が足りなければどうすればもっと寄与するのか、ということをも是非審議されたいということだ。

ただ、我々市政戦略会議としては、費用、収支といったところにも踏み込んで意見すべきであろうと、会長としては考えている。

では配布資料について事務局に説明願ひたい。

○伊藤行政改革推進課長

(資料1及び2について説明)

○栗林会長

Bグループのコーディネーターを務める副会長から一言お願ひしたい。

○田口副会長

Bグループでもこれまで勉強会を行い、なかなか意見のとりまとめが難しいと思っているが、先ほど会長からお話があったように、その施設がどのくらい市民に寄与しているのか、ということの基本ベースに、予算にも触れながら議論・検討をしていきたい。

○栗林会長

では、公開検討会の取り組み全体について質問・意見はないか。

○田平委員

資料2の2ページの③質疑・議論について、考え方は評価シートに記入するとのことだが、評価シートはいつ配布されるのか。今日配布されるなら、事前に書き込んでもよろしいか。

○伊藤行政改革推進課長

評価シートは今日配布する。事前に書き込んでいただいても差し支えない。

○田平委員

Aグループの場合はA1からA5まで施設があるが、一つずつ結論を出していくのか、それとも全施設の議論が終わってから全てを俯瞰した結論を出すのか。

○伊藤行政改革推進課長

一つずつ議論していただいて、一つずつ結論を出していただく。ただし貸館の場合は全部終わった後、貸館全体としてどうしたらいいかというご意見をいただきたいと思っている。

○田平委員

では、施設ごとの時間を示していただきたいと思う。

○伊藤行政改革推進課長

ご用意させていただく。

○栗林会長

他に何か質疑はないか。

ないようなので、本日の会議はこれで閉会する。

【午後 4 時 25 分 閉会】